

はいる はいる 出雲市立中央保育所

1歳児 A 児は、穴を通す手作り遊具で遊んでいる。
その遊具は、ペットボトルの側面に開いている穴に、ペットボトルのふたなどでできた物を通して遊ぶ物である。
A 児は穴に通すことを繰り返し楽しんでいる。



ペットボトルは底を切り取り、その部分に底をチャックで開け閉めできる布をつけてある。穴から中に入れた物は、チャックを開けて取れるようになっている。

入れる物は、ペットボトルのふたやフィルムケースにきれいにビニールテープを巻き、いろいろな太さや長さになっていて、魚などに見立てられる。



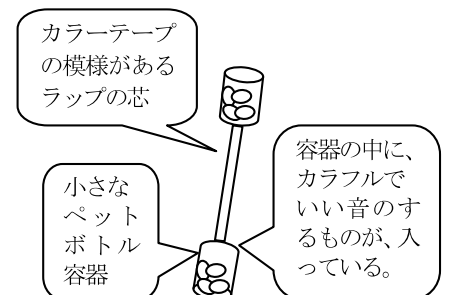
場面1 A 児


A 児の様子	保育者のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> • ペットボトルのふた、1つのままや2つ、3つを筒状につなげてビニールテープでつけたものは、穴を通しやすく、すっと入る。すぐに違うものを探す。 • 保育者が勧めてくれたものを取り、入れる。探して違う大きさなど、違いを感じて選んで入れている様子がある。 • フィilmケースは、向きによって入れやすさが違い、入れようとしてもなかなか入らないと、逆から入れることを試みる。入るとうれしそうに手を上げ保育者を見る。もった感触によって、入れる向きを見てから（考えて）入れる様子がある。 • 穴を上にしてペットボトルを寝かして入れると、力を入れて押しやすく入りやすい。はじめは、そうしていたが、立てて入れることにこだわり、立ててペットボトルを押さえながら入れるという動きをする。 • 全て入れ終わると喜び、布の下のチャックを開けて、中の物を全て出し、再び始める。 • 保育者がいなくなっても、そのまま続けている。（別の所では、同様の遊具でペットボトルを横にして、手のひらや両手で入れる方法で遊んでいる子がいる） 	<ul style="list-style-type: none"> • 入れる度に「入ったね」など声をかける。そばで見守っている。 • 「それはお魚さんなの」「どうかな」など探していることで手にしたものを、言葉で表す声かけをしている。意味づけて違うものということが分かりやすいようになる。 • 保育者の方から、「これは、たこ。これはどう」と違う大きさのテープで巻いた物に興味を持つように促す。 • 「できたね」など挑戦したものにはそれらしい声をかける。 • 入れにくいものの時は支えるところを援助する。 • 立ててやりたいということを受け止め、A児が自分で支える動きに邪魔にならないように、ペットボトルの上の方を押さえる。 • 「全部できたね」とできたことを一緒に喜び、自分でチャックを開けて中のものを出す頃には、その場から去っている。



場面2 B 児

またいで座れるほどの大きさのスポンジ積み木が並べてあり、B 児はそこにまたがっている。うつむきかげんで、言葉もなくじっとしている。しばらくして、そばにいる保育者から、振ると容器の中の物が動き音がする手作り遊具を目の前に見せられて、自分から手を出して片手で受け取る。



B児の様子	保育者のかかわりや分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中型のスポンジ積み木が並んでいる上にまたがり、じつとしています。 ・ 保育者から受け取った遊具(ラップの芯の両端に容器がついている。容器の中には、振ると動いて音がする物を入っている)を動かして見る。 ・ 容器の中のものが動くことに気付き、先より大きく動かす。きれいな音が出て笑顔になる。 ・ 両手で振ることを繰り返し「キャーキャー」など声を発したり全身をはねるように動かしたりする。 ・ 振り方、振る速さ、動かし方を変えて、容器の中の物が動く様子を見ながら繰り返す。 ・ 芯の中央をあごの下に挟んで、感触を楽しむ。 <div data-bbox="699 595 917 916" style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ またがって座ることがやっという様子があったが、しばらく動きがなく、座っていられるので、次の動きが出る遊具を渡してみる。 ・ 一人で見たり動かしたりして、繰り返し自分なりのかかわりをしている。楽しさが分かると、動きや声が出てくる。保育者を頼ったり求めたりする様子はないが、保育者が渡してくれた物は、「何だろう」という感じで受け入れることが分かる。 ・ 保育者の必要な場面を見逃さずかかわることで、一人一人の幼児に安定した環境を作り出している。 ・ 素材の感触や動き、音など感性を働かせて、探索的ではあるが、遊具に興味を持ってかかわっている。

みどころ

注目していただきたい点や事例の特徴を財団がまとめました。

保育者が自分のために声をかけてくれることやしてくれることがわかり、安心して自分のかかわり方で遊具での遊びを楽しんでいます。自分なりの方法で好きな遊具にかかわることで、＜穴に入れると中に入る・中に入りやすい物と入れるのに力がある物がある＞＜振る(動かす)と音がする＞などの素材や遊具の特徴を感じ、遊び方が分かっていく姿があります。そして、＜穴に入る大きさの物、入れる時の力の入れ方、入れる時の持ち方・押さえ方＞＜振り方、動かし方、動く様子、音の様子＞など感覚を楽しみながら繰り返し遊ぶという、意欲的な探索行動が見られ、「科学する心」の芽生えを感じることができます。

また、遊具の持つ面白さが分かり安心して遊べる手作りの遊具のよさが、幼児の動きや自分なりにかかわる様子から分かります。